

年	組	名前
---	---	----

御蔵場跡一部 国指定史跡へ

大友氏遺跡に追加答申



赤枠は国指定史跡への追加指定が答申された御蔵場跡の一部（2010年5月撮影）＝大分市教委提供

国の文化審議会（宮田亮平会長）は19日、大分市の国指定史跡「大友氏遺跡」に、同市六坊北町の「御蔵場跡」と考えられる範囲の

一部（3757平方メートル）を追加指定するよう文部科学大臣に答申した。大分市教委によると、御

蔵場跡は大友氏館跡の南側に隣接し、蔵を備えた広場のような性格の公的空間として活用していたとみられる。全国的に見ても、戦国時代の遺跡としては例がなく珍しいという。発掘調査では巨大な礎石を確認しており、門か大きな建物があったと類推している。

大友氏遺跡は大友氏館跡と上原館跡、菩提寺だった万寿寺跡で構成する遺跡群。国内有数の中世都市遺跡である豊後府内の中核として評価され2001年に国の指定史跡になった。追加指定は14回目。累計の指定面積は8万5289平方

(2015年6月20日朝刊23面)

国の文化審議会は、大分市の国指定史跡「大友氏遺跡」に、「御蔵場跡」と考えられる範囲の一部を追加指定するよう答申しました。

①「御蔵場跡」とは当時、どのように活用されたものでしょう。

③ほかに地元市町村内や県内に、どのような国指定史跡があるでしょう。調べてみよう。

②「大友氏遺跡」を構成する遺跡は何でしょう。

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....